

## ◆今期間のポイント

## ＜主要しょう乱の概要＞

- 30日は、低気圧がサハリン付近へ進み、前線が北日本付近を通過する。
- 31日は、低気圧がオホーツク海へ進み、大陸の高気圧が張り出して日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 1月1日は、低気圧がオホーツク海を北上する。
- 2日は、気圧の谷が日本の東にのび、大陸の高気圧が西日本付近に張り出す。
- 3日は、低気圧が千島の東に進み、大陸の高気圧が日本の南に張り出す。

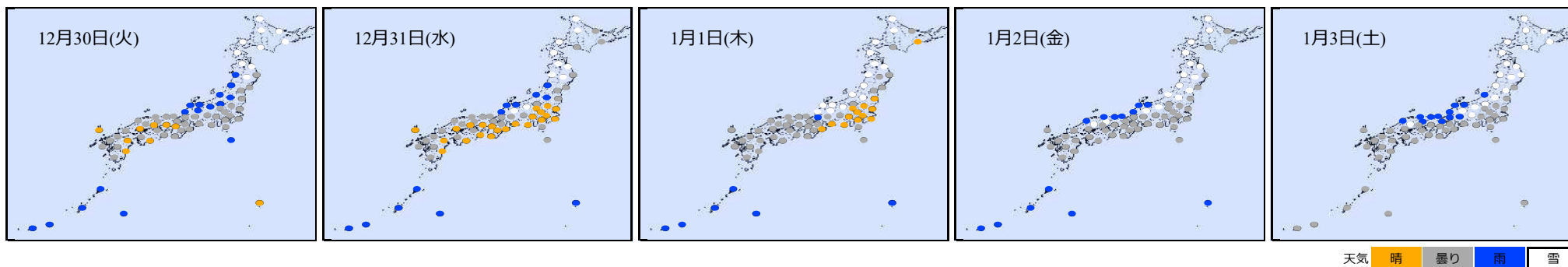
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

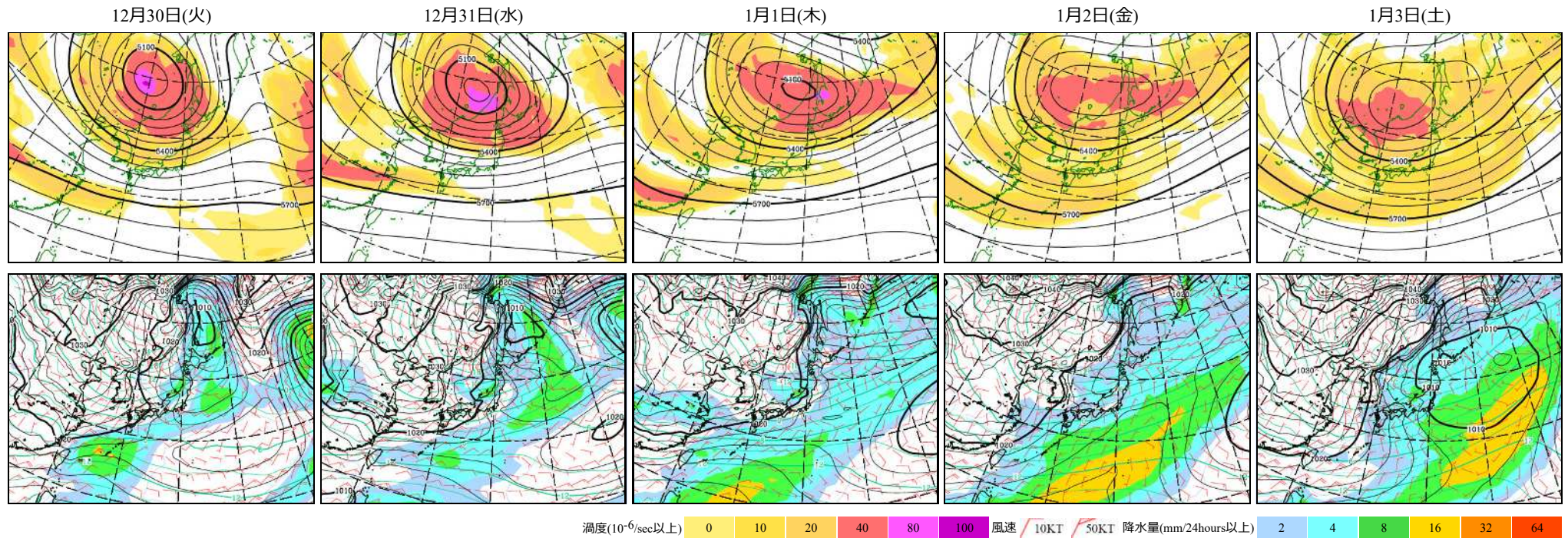
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

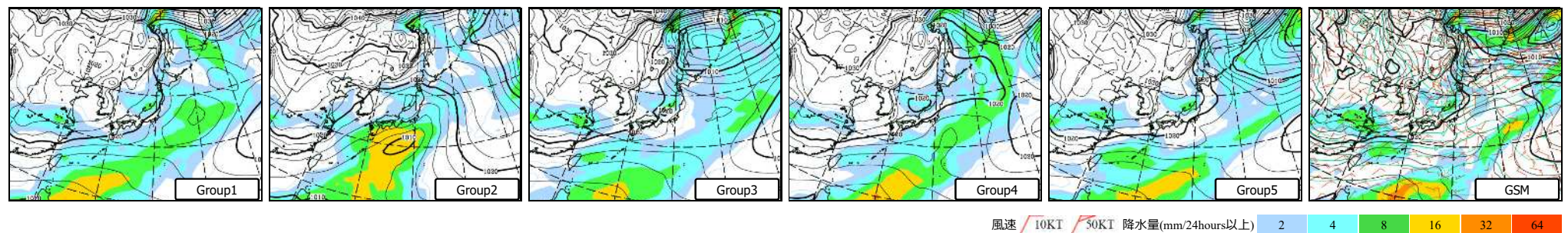


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れる日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月1日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、31日は、大陸の高気圧は弱まったが、北日本付近への張り出しは強くなった。1日は、オホーツク海の低気圧は弱まり、大陸の高気圧の西日本付近への張り出しも弱くなった。2日は、オホーツク海の低気圧は弱まったが、東日本付近では気圧の谷が深くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、1月1日は西日本日本海側で小さくなった。
- スプレッドは期間の後半は大きく、期間後半は特定高度線のバラつきも大きい。
- 1月1日以降は、地上の気圧配置の予想もモデル間の差が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。